

# 稲荷町遺跡

—第37次調査 宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書—

2021.6

積水ハウス不動産東北株式会社  
盛岡市教育委員会



# 稲荷町遺跡

—第37次調査 宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書—

2021.6

積水ハウス不動産東北株式会社  
盛岡市教育委員会



# 例 言

1. 本書は、岩手県盛岡市大館町<sup>おおだてちょう</sup>126番1、127番1、597番地内に所在する稲荷町遺跡<sup>いなりちょう</sup>の第37次発掘調査報告書である。
2. 本調査は、宅地造成工事に伴い、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。野外調査は、令和2年9月7日から令和2年11月6日まで実施した。調査面積は、1,441㎡（対象面積1,682㎡）である。
3. 本調査は、事業主の積水ハウス不動産東北株式会社 代表取締役社長 西村 裕氏と盛岡市教育委員会との間で締結された協定書に基づき、盛岡市遺跡の学び館が野外調査及び出土資料整理並びに報告書編集を実施した。本調査に係る費用は、事業主体である積水ハウス不動産東北株式会社が支出した。
4. 発掘調査及び本書の編集・執筆は、盛岡市遺跡の学び館 菊地幸裕・鈴木俊輝が担当した。  
なお、野外調査及び資料整理には、次の方々が従事した（五十音順）。  
秋元 理恵、千葉 智子、袴田 英治、細田 幸美、村上 幸子、  
村上 美香、山田 聖子
5. 遺構の平面位置は、平面直角座標X系（日本測地系）を座標変換した調査座標で表示した。  
調査座標原点    R X ± 0    ←    X - 32,200.000 m  
                                 R Y ± 0    ←    Y + 24,000.000 m
6. 挿図中の高さは、標高値をそのまま使用している。
7. 挿図中の土層図は、堆積の状況を重視し、線の太さを使い分けた。土層註記は、層理ごとに本文で記述し、個々の層位については割愛した。  
なお、層相の観察にあたっては、『新版標準土色帖』（2013 小山正忠・竹原秀雄）を参考にした。
8. 本書中の地図は、国土地理院発行2万5千分の1地形図「盛岡」「矢幅」及び「盛岡市都市計画整備図」（平成元年）を使用した。
9. 遺構の名称及び記号は次のとおりである。

遺構種別	記号	時代	遺構番号
土坑	R D	縄文時代	000～199
溝跡・堀跡	R G	古代以降	200～999

10. 遺跡全景空中写真撮影及び基準点測量は、（株）タックエンジニアリングが行った。
11. 本調査に関する出土遺物及び記録類は、盛岡市遺跡の学び館で保管・管理している。



# 目 次

例 言

目 次

I 遺跡の環境 .....	1
1 遺跡の位置 .....	1
2 地形及び地質 .....	2
3 歴史的環境 .....	3
4 これまでの調査 .....	4
II 調査成果 .....	9
III まとめ .....	20
写真図版	
報告書抄録	

## 挿 図 目 次

第1図 稲荷町遺跡 位置図 .....	1
第2図 地形分類と周辺の遺跡 .....	2
第3図 稲荷町遺跡 全体図 .....	7
第4図 稲荷町遺跡 第37次調査区全体図 .....	8
第5図 R D 021・022 土坑 .....	9
第6図 R D 411～420 土坑 .....	11
第7図 R G 410 堀跡(1) .....	15
第8図 R G 410 堀跡(2) .....	17
第9図 柱穴状ピット群 .....	19

## 写 真 図 版 目 次

第1図版 第37次調査区 全景	
第2図版 稲荷町遺跡 空中写真	
第3図版 R G 410 堀跡	
第4図版 R D 021～414 土坑	
第5図版 R D 415～420 土坑	





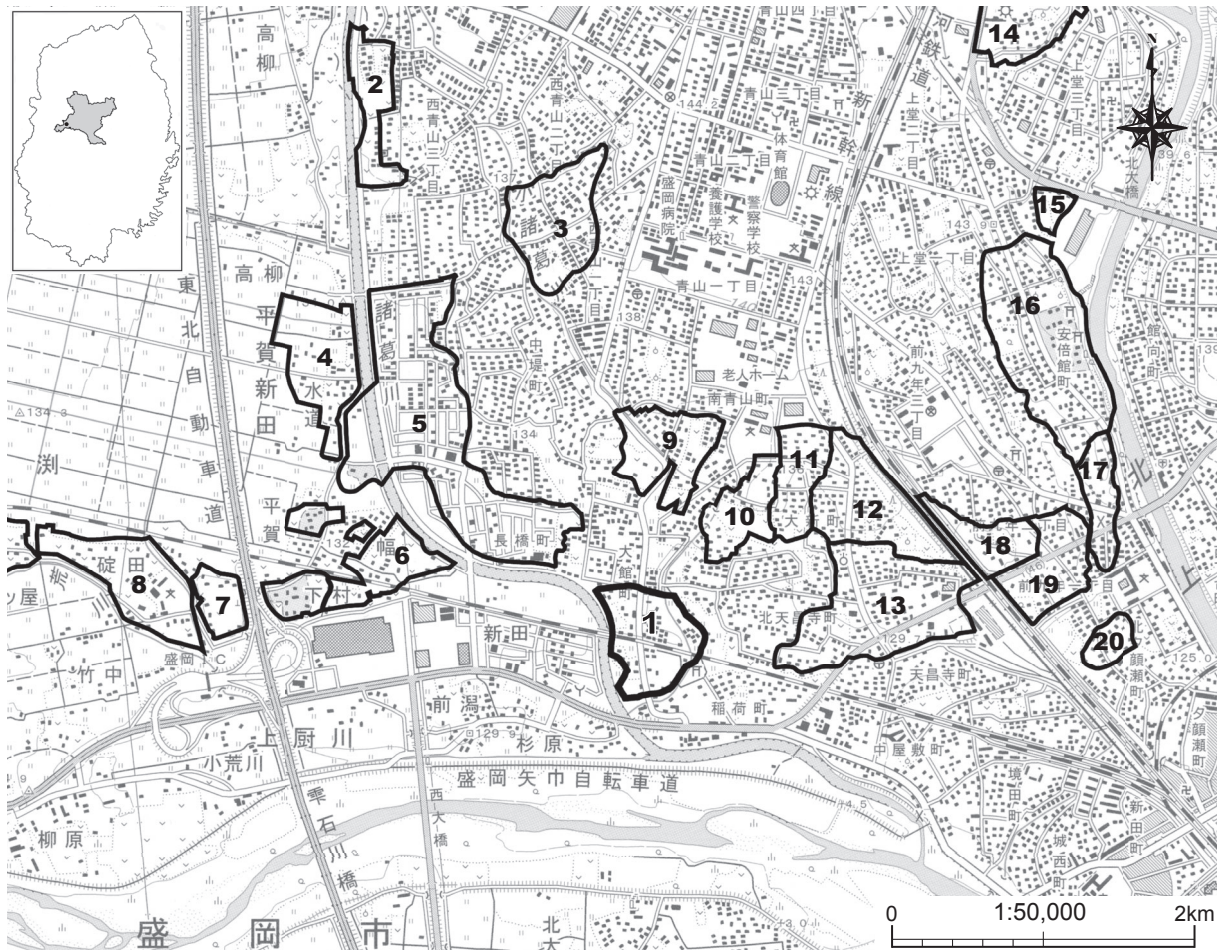
# I 遺跡の環境

## 1 遺跡の位置

岩手県盛岡市は、県土のほぼ中央に位置している。市域の北側を岩手町・葛巻町，東側を岩泉町・宮古市，南側を矢巾町・紫波町，西側を八幡平市・滝沢市にそれぞれ接している。岩手県の県都として、人口約 30 万人，総面積約 886.47km<sup>2</sup>を測る。

稲荷町遺跡は、JR 東北本線 盛岡駅から北西に約 2.0km，盛岡市稲荷町・大館町地内に所在する。遺跡の東側には東北新幹線・JR 東北本線が，西側には東北自動車道が縦断し，本遺跡の中央を JR 田沢湖線が横断している。遺跡の範囲は，東西約 300m，南北約 380m で，半月状の形態を呈している。

本遺跡及びその周辺は，かつては田畑が多く点在していたが，近年は宅地化が顕著となり，本遺跡内のほとんどが住宅地である。今次調査地点は，宅地化されていない箇所であり，現況は田畑地である。



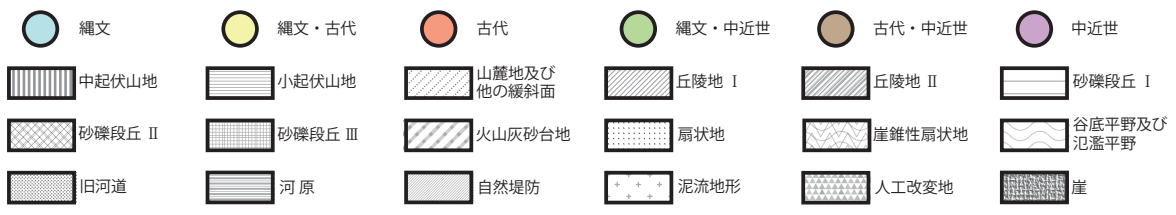
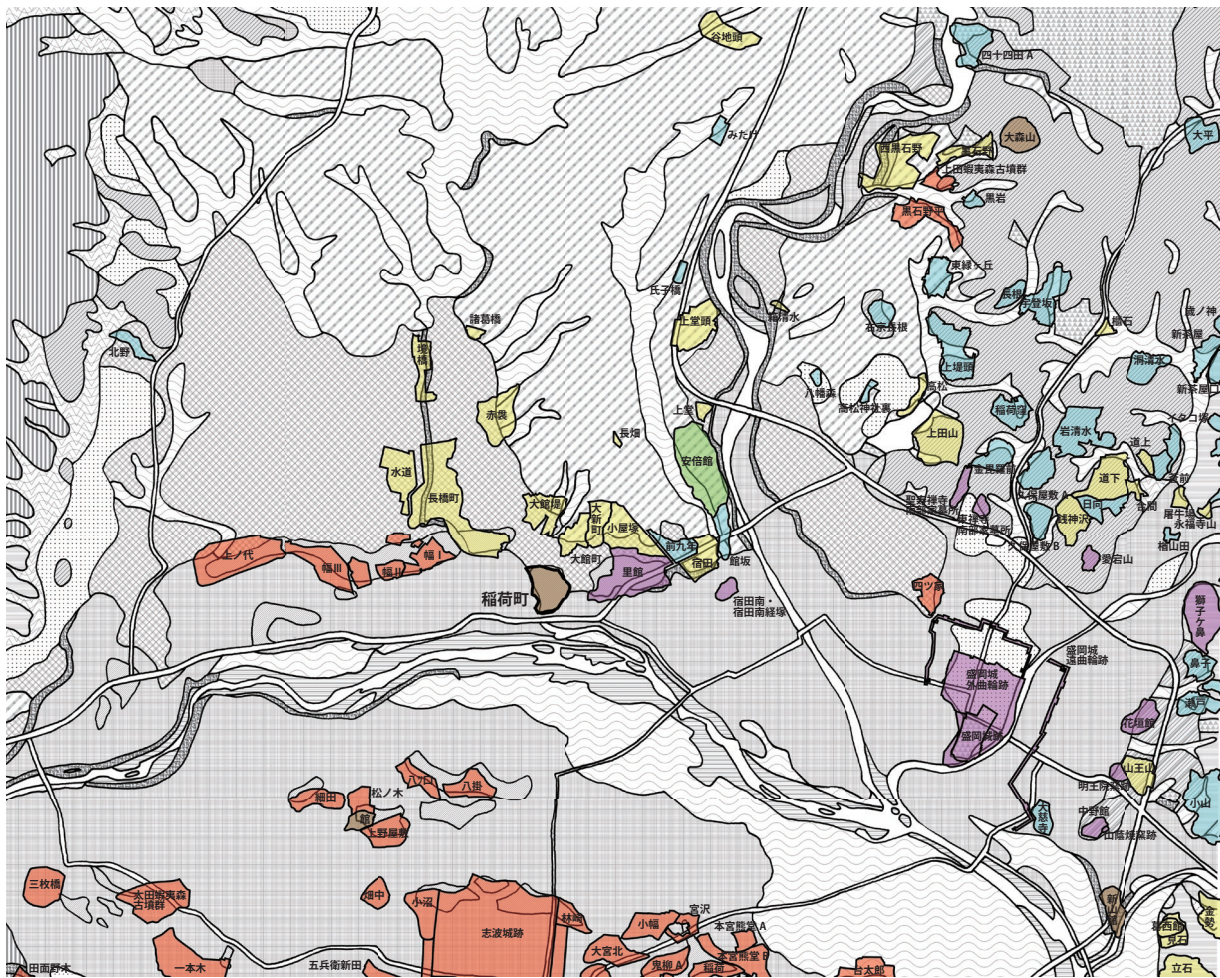
1	稲荷町遺跡	2	境橋遺跡	3	赤袷遺跡	4	水道遺跡
5	長橋町遺跡	6	幅Ⅰ遺跡	7	幅Ⅱ遺跡	8	幅Ⅲ遺跡
9	大館堤遺跡	10	大館町遺跡	11	大新町遺跡	12	小屋塚遺跡
13	里館遺跡	14	上堂頭遺跡	15	上堂遺跡	16	安倍館遺跡
17	館坂遺跡	18	前九年遺跡	19	宿田遺跡	20	宿田南遺跡

第 1 図 稲荷町遺跡 位置図

## 2 地形及び地質

本遺跡は、雫石川北岸に形成された中位砂礫段丘の南端東側に立地している。北上川以西雫石川以北の地域には、火山灰砂台地が大きく広がっている。南東端は北上川に沿って突出し、急崖をもって接している。台地の西側には沼森山地及びその山麓に扇状地が広がり、岩手山南東麓の泥流丘に接している。台地の南側から雫石川北岸にかけて、本遺跡の立地する中位砂礫段丘及び低位砂礫段丘が形成されている。高位砂礫段丘はほとんど認められない。

火山灰砂台地及び砂礫段丘の中央付近には、北上川と平行して諸葛川が南北に流れ、これに支流の小河川が流入している。また、現状ではほとんど観察できない埋没谷が幾筋にも走っており、台地を細かく開析している。諸葛川は、中位砂礫段丘の南縁で流路を弧状に大きく転換させて雫石川に注いでいる。本遺跡は、この弧状屈曲部を西縁としている。



第2図 地形分類と周辺の遺跡

### 3 歴史的環境

盛岡市内には、旧石器時代から近世までの遺跡が所在しているが、このうち、本遺跡が立地する雫石川北岸から北上川西岸の滝沢台地上には、縄文時代から中世を主体に数多くの遺跡が点在している。

本遺跡の北東には、大新町遺跡が所在する。縄文時代草創期の爪形文や早期の押型文・沈線文土器群を含む遺物包含層が確認されているほか、早期の竪穴建物跡も多数検出されている。縄文時代草創期から早期の遺物は、大館町遺跡、安倍館遺跡、館坂遺跡などでも確認されている。

縄文時代前期には遺跡数は激減するが、続く中期になると集落が増加し、拠点集落が市内各地に形成されるようになる。本遺跡の北側に位置する大館町遺跡はその代表的存在である。中期中葉を中心に 500 棟以上の竪穴建物跡と、500 基以上の土坑、掘立柱建物跡、竪穴跡、前期から中期を主体とする遺物包含層などが確認されている。縄文時代中期の遺構・遺物は、近接する小屋塚遺跡や前九年遺跡等でも確認されている。

縄文時代後期から晩期になると、明確な集落跡は確認されていないが、大新町遺跡、大館町遺跡で後期の竪穴建物跡や遺物包含層が若干確認されている。

弥生時代には、大館町遺跡で前期の竪穴建物跡が確認されている。古墳時代になると、北海道系の続縄文文化の影響が認められ、本遺跡の東方の宿田遺跡、宿田南遺跡、安倍館遺跡では後北式土器が確認されている。古墳時代終末期の 7 世紀以降は集落が増加し、大館町遺跡では 7 世紀代の竪穴建物跡が検出されている。8 世紀には更に、大新町遺跡や小屋塚遺跡でも集落が確認されるようになり、その様相は平安時代にも続いている。また、墳墓では、宿田遺跡から 7 世紀代に比定される円墳と、9 世紀代の円形周溝群が検出されている。

平安時代後期の 10 世紀末から 11 世紀前半にかけては、大新町遺跡、大館町遺跡、小屋塚遺跡から竪穴建物跡や溝跡、掘立柱建物跡等の遺構と土師器小皿等の遺物が確認されている。安倍氏の拠点 厨川柵、堀戸柵については未だ所在地が確定していないが、これらの知見から当該地域内に所在した可能性が挙げられよう。また、本遺跡の北方の赤裳遺跡では、土器製作遺構と推測される竪穴建物跡と土器焼成土坑等の遺構と、土師器 坏、小皿、高台付坏等の遺物が多数確認されている。出土土器から 11 世紀中葉の遺跡と推測される。当該期の土器生産拠点としての機能が想定されるもので、その供給先としては、安倍氏関連施設が想起されるものである。

安倍氏滅亡後、盛岡周辺においても奥州藤原氏の影響が及ぶようになる。本遺跡及び里館遺跡では、12 世紀代の掘立柱建物跡や堀跡等の遺構が確認されており、奥州藤原氏との関連が窺える。鎌倉期以降、岩手郡は工藤氏の統治下に入るが、その居城とされるのが安倍館遺跡と里館遺跡である。安倍館遺跡は戦国時代後期の栗谷川城であり、15 世紀から 16 世紀の遺構・遺物が確認されている。里館遺跡からは、14 世紀から 16 世紀の遺構・遺物が確認され、一部、13 世紀の遺物も散見される。栗谷川城に先行する工藤氏の城館と推測される。宿田南遺跡には宿田南経塚が所在する。一字一石経、多字一石経の経石が多数埋納されていた。出土遺物がないため帰属時期は明確にはしえないが、経文の書風から鎌倉中期以降の可能性がある。

江戸時代の盛岡藩政下では、本遺跡周辺は厨川通厨川村に属していた。雫石川の北岸を秋田街道が、北上川西岸には鹿角街道が通じていた。本遺跡及び里館遺跡、安倍館遺跡では近世の掘立柱建物跡が確認されている。

## 4 これまでの調査

本遺跡は、昭和 55 年に実施した第 1 次調査を嚆矢とし、今次調査まで、本調査 11 回、試掘調査 32 回を実施している。

第 1 次調査は、本遺跡の北西部において、宅地造成工事に伴う事前調査として実施した。調査の結果、中近世の掘立柱建物跡、掘立柱列跡、竪穴建物跡、土坑が確認された。掘立柱建物跡のうち 1 棟は、近世の「曲屋」跡である。南西棟の母屋の南東側に、南北棟の角屋を突出させた L 字形の建物跡である。その他の建物跡については、建物同士が共存、あるいは建物に柱列が附随する例が認められる。帰属時期については、柱列跡出土古銭及び遺構の重複関係等から、16 世紀から 18 世紀中葉以降が推測される。

第 2 次調査は、宅地造成工事に伴う事前調査として昭和 61 年に実施した。その結果、縄文時代の陥し穴状土坑、古代以降の竪穴、掘立柱建物跡、溝跡等の遺構が確認された。このうち掘立柱建物跡は、規模により大小 5 種に類型化可能な 17 棟が検出された。最も大きい規模の類型に属する 1 棟は、桁行 10 尺、梁間 9.7 尺の規模を測る四面庇の東西棟である。遺構の帰属時期については、土坑出土の中国産白磁碗及び須恵器 壺や、柱穴掘方出土の手捏かわらけ等の遺物から 12 世紀代を中心とする時期が想定される。

第 10 次調査は、本遺跡の北西端、第 1 次調査区の北側隣接部において、個人住宅建築に伴う調査として平成 3 年に実施した。調査の結果、中世の堀跡、土塁跡、柵跡等の遺構が確認された。検出された堀跡内壁面には柵が設けられ、その内側に土塁が築かれていた。

第 25 次調査は、本遺跡北東部において、共同住宅建築に伴う事前調査として平成 21 年に実施した。調査区は長狭範囲であったが、近世以降の掘立柱建物跡及び溝跡、竪穴状遺構、土坑、多数の柱穴等の遺構が検出された。掘立柱建物跡は、調査区の北部と南部から確認されたが、北部の 1 棟は、簡素な構造を呈していた。竪穴状遺構は円形を呈し、北側の溝跡から水を引き込む溜池の機能が推測される。遺物は、16 世紀末から 17 世紀初頭に比定される唐津焼 皿が出土した。

第 28 次調査は、本遺跡のほぼ中央に位置し、共同住宅建築に伴う試掘調査として平成 24 年に実施した。調査の結果、縄文時代の陥し穴状土坑、平安から鎌倉時代の溝跡、池状遺構、土坑、10 数口の柱穴等の遺構が検出された。当該地は第 2 次調査区に西側に隣接しており、一連の遺構群と推測される。なお、遺構は建築工法変更によって現状保存措置が採られた。

第 32 次調査は、本遺跡北西隅部において、平成 28 年に実施された試掘調査である。調査の結果、縄文時代の土坑 4 基、平安時代後期の竪穴建物跡 3 棟、平安時代以降の溝跡 1 条、柱穴が検出された。調査区北側には第 10 次調査で検出された堀跡及び土塁の延長が想定されるが、本調査の遺構群は、堀跡・土塁とは若干の時期差が認められ、先行する時期の遺構群と推測される。

第 34 次調査は、本遺跡南西隅部に位置し、高齢者向け賃貸住宅建設に伴う試掘調査として平成 30 年に実施した。その結果、古墳時代から奈良時代の土坑 1 基、平安時代後期以降と推測される堀跡 1 条、溝跡 6 条、土坑 7 基、柱穴約 150 口が確認された。古墳時代から奈良時代に比定される土坑からは、水晶製切子玉が出土している。調査区東端部では平安時代以降に帰属する堀跡が検出された。本調査区周辺部では調査類例に乏しく、堀跡の全容は不明である。なお、遺構は建築工法変更によって現状保存措置が採られた。

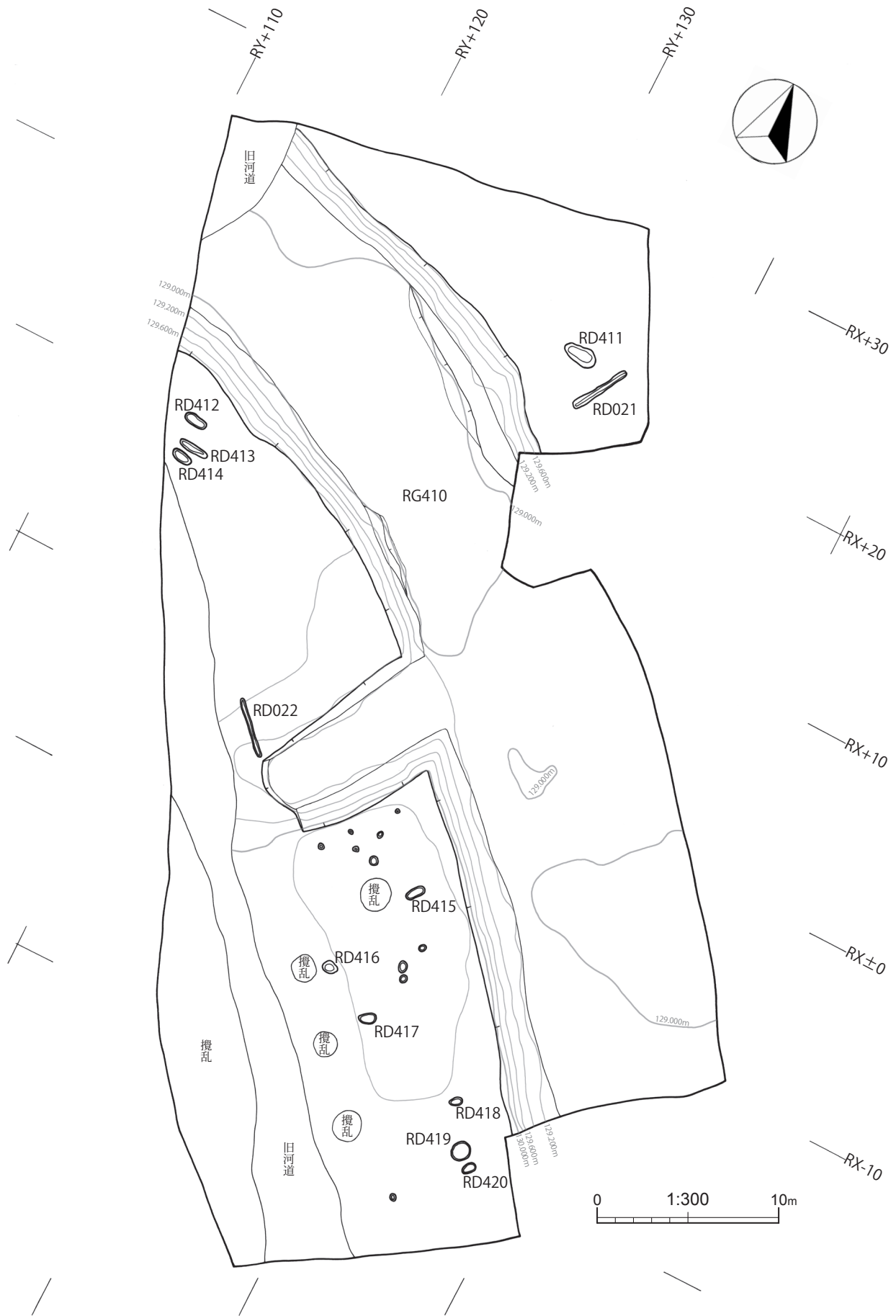
稲荷町遺跡調査一覧

次数	区分	所在地	調査原因	面積 (㎡)	調査期間	主な検出遺構・出土遺物
1	試掘	大館町 319-1 外	宅地造成	1,254	1980.4.16 ～ 4.25	遺構・遺物 なし
1	本調査	大館町 233-8 外	宅地造成	1,135	1980.8.19 ～ 9.20	中近世の掘立柱建物跡 15 棟, 竪穴 1 棟, 柱 列跡 7 条, 土坑 12 基 近世の陶磁器, 古銭, 鉄製品
2	試掘	大館町 15-6	個人住宅増築	16	1983.8.10	遺構・遺物 なし
2	本調査	稲荷町 18-1, 19-2	宅地造成	5,206	1986.7.1 ～ 7.31	縄文時代の土坑 20 基, 古代以降の竪穴 1 棟, 掘立柱建物跡 17 棟 縄文時代の石器, 中近世の陶磁器
3	本調査	稲荷町 13-2, 17-4	私道整備	316	1987.4.13 ～ 4.17	縄文時代の土坑 1 基, 時期不詳の溝跡 2 条, 小柱穴 10 数口
4	本調査	稲荷町 13-15	個人住宅新築	60	1987.5.8 ～ 5.13	古代以降の柱穴
5	試掘	大館町 26-10	個人住宅新築	53	1987.11.4 ～ 11.5	遺構・遺物 なし
6	本調査	稲荷町 16-6・7・26, 17 -4・5 外	個人住宅新築	215	1988.4.11 ～ 4.13	時期不詳の溝跡 1 条, 小柱穴
7	本調査	稲荷町 16-4	個人住宅新築	355	1989.11.20 ～ 12.16	古代以降の溝跡, 小柱穴 42 口
8	試掘	稲荷町 12-2	個人住宅新築	137	1990.10.8	遺構・遺物 なし
9	試掘	稲荷町 144-1, 177	店舗新築	107	1991.8.26	遺構・遺物 なし
10	本調査	大館町 235-3	個人住宅新築	275	1991.10.14 ～ 11.11	中世の堀跡, 柵跡, 土塁 縄文土器片, 中世のかわらけ片
11	試掘	大館町 26-9	個人住宅建築	22	1993.7.21	遺構・遺物 なし
12	試掘	稲荷町 14-2・3,16-1・5	個人住宅建築	58	1994.6.2	遺構・遺物 なし
13	試掘	大館町 323-1 の一部	個人住宅建築	10	1994.7.11	遺構・遺物 なし
14	試掘	稲荷町 9-3・5	個人住宅建築	60	1994.12.1	遺構 なし 縄文時代の石器
15	試掘	稲荷町 13-11	個人住宅建築	129	1995.4.4	遺構・遺物 なし
16	本調査	稲荷町 14-34	個人住宅建築	60	1995.6.27 ～ 6.28	中世以前の掘立柱建物跡 土師器片
17	試掘	大館町 233-6	店舗併用住宅建 築	100	1996.9.9	遺構・遺物 なし
18	試掘	稲荷町 13-13	個人住宅建築	61	1996.10.7	遺構・遺物 なし
19	試掘	大館町 223	個人住宅建築	35	1997.3.10	遺構・遺物 なし
20	試掘	大館町 431-1, 436-1, 318-5	共同住宅建築	198	1998.9.18	遺構 なし 近現代の陶磁器片
21	試掘	大館町 320-4	個人住宅建築	29	1999.6.25	遺構・遺物 なし
22	試掘	稲荷町 13-10	個人住宅建築	28	2000.8.23	遺構・遺物 なし
23	試掘	大館町 438-3, 434-10	共同住宅建築	82	2005.6.30	時期不詳の柱穴 遺物 なし
24	試掘	稲荷町 13-19	個人住宅建築	21	2008.6.10	遺構・遺物 なし
25	本調査	大館町 322-1 外	共同住宅建築	540	2009.5.10 ～ 5.26	近世以降の掘立柱建物跡 2 棟, 溝跡 1 条, 竪穴状遺構 1 基, 土坑 2 基 近世の陶磁器
26	試掘	大館町 328-1 の一部, 328-5 ～ 7	アパート建築・ 駐車場造成	80	2009.10.26	中近世の溝跡 1 条 近世の陶磁器片
27	試掘	稲荷町 14-6,14-2 の一 部	福祉施設建設	134	2010.4.22	遺構・遺物 なし

次数	区分	所在地	調査原因	面積 (㎡)	調査期間	主な検出遺構
28	試掘	稲荷町 14-7, 14-10	共同住宅建築	197	2012.8.6 ～8.7	縄文時代の陥し穴状土坑 2 基, 平安～中世の溝跡 1 条, 池状遺構 1 基, 土坑 1 基, 柱穴遺物 なし
29	試掘	大館町 242-11	個人住宅建築	17	2012.8.23	遺構・遺物 なし
30	試掘	稲荷町 16-8 の一部	共同住宅建築	137	2013.3.11	中世の柱穴, 時期不詳の溝跡 1 条 遺物 なし
31	試掘	大館町 236-1, 239-1 外	介護施設建設	248	2014.7.15	遺構・遺物 なし
32	試掘	大館町 235-1	介護施設建設	263	2016.4.11	縄文時代の土坑 4 基, 平安時代の竪穴建物跡 3 棟, 溝跡 1 条 平安時代後期の土器片
33	試掘	大館町 323-13, 323-5	宅地造成	31	2016.4.27	遺構・遺物 なし
34	試掘	稲荷町 3-1・4, 5-1・2, 6-1・7・8, 9-2・10・11	高齢者施設建設	520	2018.5.23 ～5.25	古墳～奈良時代の土坑 1 基, 平安時代後期以降の堀跡 1 条, 溝跡 6 条, 土坑 7 基, 柱穴 古墳～奈良時代の切子玉, 平安時代の土師器
35	試掘	大館町 434-2	宅地造成	48	2019.7.23	中世の堀跡 1 条 遺物 なし
36	試掘	大館町 126-1, 127-1, 597	宅地造成	255	2019.12.3 ～12.4	縄文時代の土坑, 中世の堀跡, 溝跡 近世の陶磁器片 (今次調査の試掘調査)
37 (今次)	本調査			1,441	2020.9.7 ～11.6	縄文時代の陥し穴状土坑 2 基, 古代以降の土坑 10 基, 柱穴 10 口, 中世の堀跡 1 条 近世の陶磁器
38	試掘	大館町 326-1, 328-4	個人住宅建築	22	2020.8.27	遺構・遺物 なし



第3図 稻荷町遺跡 全体図



第4図 稻荷町遺跡 第37次調査区全体図



## Ⅱ 調査成果

### RD 021 土坑 (第 5 図)

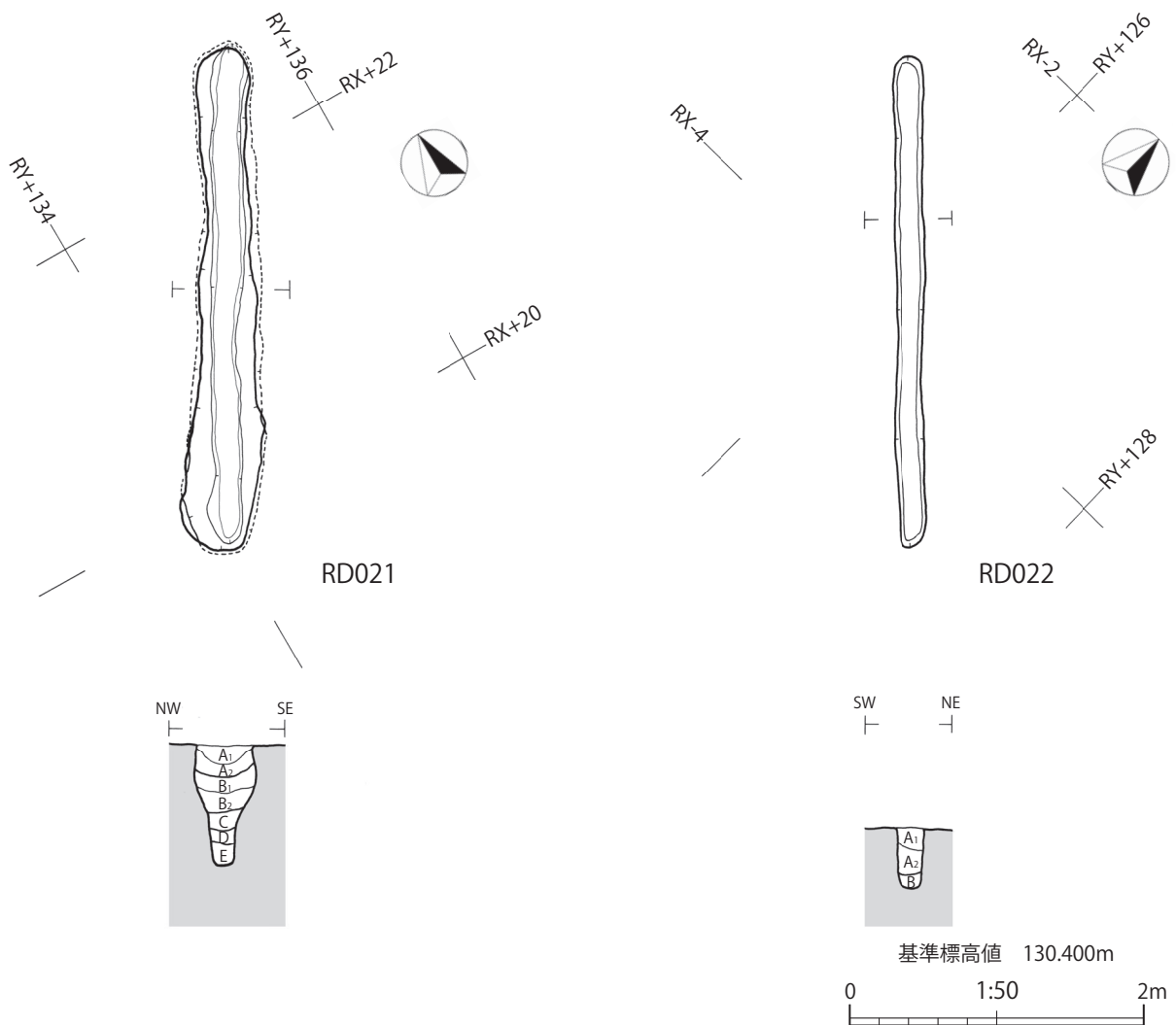
位 置	調査区北東部	平 面 形	溝状長楕円形	重複関係	なし
規 模	開口部 長軸約 3.42m, 短軸約 0.3m		基底部	長軸約 3.36m, 短軸約 0.1m	
	深さ約 0.82m				
埋 土	A～E層の5層からなる。				

A層は、黒褐色土を主体とする層で、黄褐色シルト粒を少量含んでいる。黄褐色シルト粒の含有量が2層に細分される。

B層は、黒褐色土を主体とする層で、黄褐色シルト粒を少量含んでいる。上層のB<sub>1</sub>層の方がシルト粒の含有率が高い。

C層は、黒褐色土を主体とする層で、黄褐色シルト粒を少量含んでいる。

D層は、褐色土を主体とする層で、黄褐色シルト粒を多量に含んでいる。



第 5 図 RD 021・022 土坑

E層は、黒褐色土を主体とする層で、黄褐色シルト粒を多量に含んでいる。

上層のA・B層に比して下層のC～D層は軟質で、密度が小さい。

底面・壁 壁は断面がY字形を呈していたと推測されるが、上半部の壁の一部が崩落しており、胴張の形態を呈している。基底面はほぼ平坦で、逆茂木痕等は確認されなかった。

出土遺物 出土していない。

#### RD 022 土坑 (第5図)

位置 調査区中央部 平面形 溝状長楕円形 重複関係 なし

規模 開口部 長軸約 3.34m, 短軸約 0.18m 基底部 長軸約 3.25m, 短軸約 0.11m  
深さ約 0.42m

埋土 A・B層の2層からなる。

A層は、黒褐色土を主体とし、褐色シルト粒を多量に含んでいる。

B層は、黒色土を主体とし、褐色シルト粒を多量に含んでいる。

底面・壁 上半部が削平されており、下半部のみ検出された。基底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。基底面に逆茂木痕等は確認されなかった。

出土遺物 出土していない。

#### RD 411 土坑 (第6図)

位置 調査区北東部 平面形 不整楕円形 重複関係 なし

規模 長軸約 1.84m, 短軸約 0.85m, 深さ約 0.45m

埋土 A・B層の2層からなる。

A層は、黒褐色土を主体とし、褐色シルト粒を少量含んでいる。褐色シルト粒の含有率で2層に細分され、下層のA<sub>2</sub>層の方が含有率が高い。

B層は、褐色土を主体とし、黒褐色シルト粒及び黄褐色シルト粒を微量含んでいる。

底面・壁 基底面はほぼ平坦で、壁は大きく外傾して立ち上がる。

出土遺物 出土していない。

#### RD 412 土坑 (第6図)

位置 調査区北西部 平面形 不整楕円形 重複関係 なし

規模 長軸約 1.22m, 短軸約 0.46m, 深さ約 0.21m

埋土 A～C層の3層からなる。

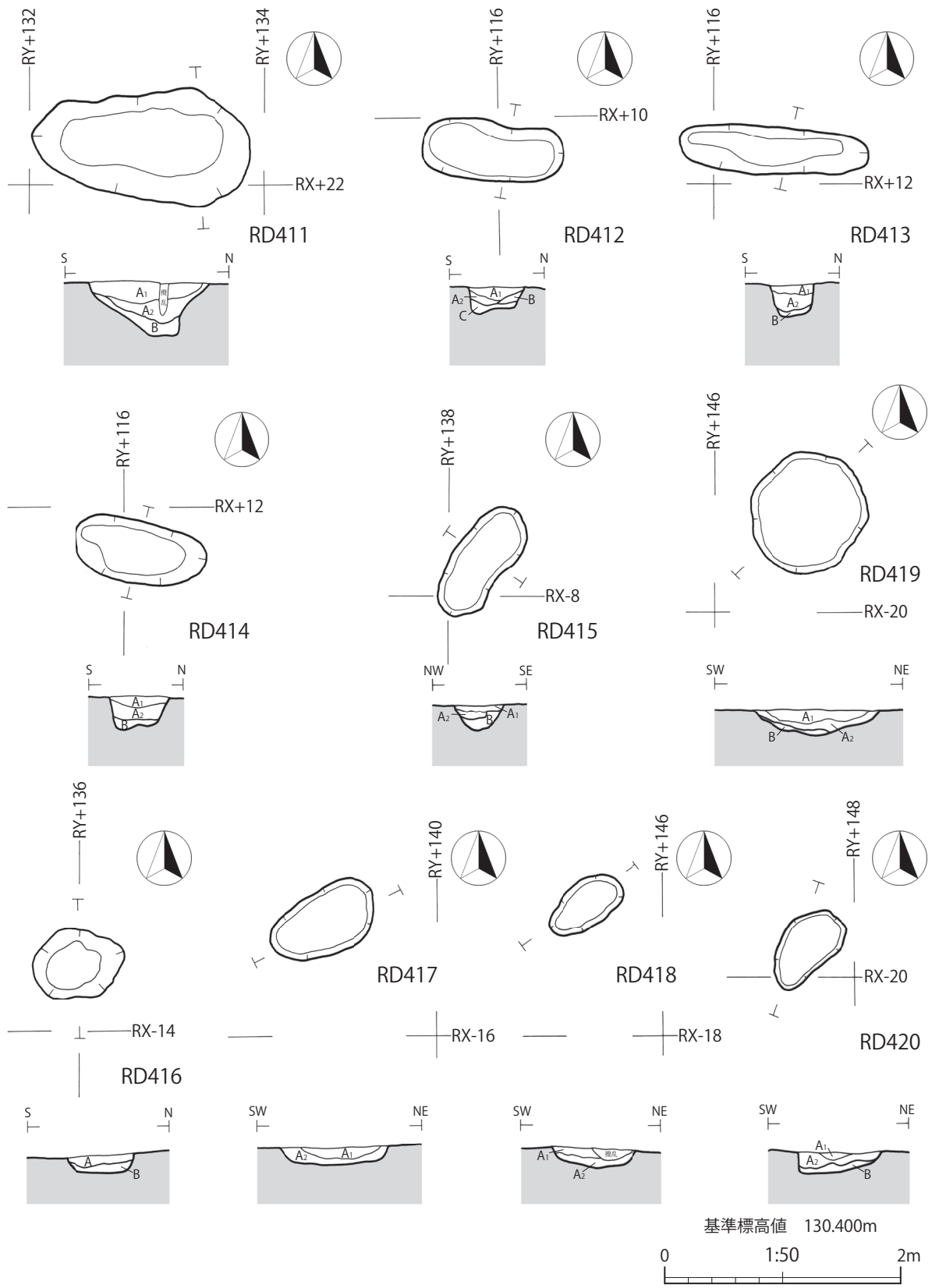
A層は、黒褐色土を主体とし、褐色シルト粒を微量含んでいる。

B層は、褐色土を主体とし、黄褐色シルト粒を少量含んでいる。

C層は、褐色土を主体とし、黒褐色シルト粒を少量含み、黄褐色シルト粒を微量含んでいる。

底面・壁 基底面は、中央部が若干盛り上がる形態を呈し、壁は若干外傾して立ち上がる。

出土遺物 出土していない。



第6図 RD 411 ~ 420 土坑

RD 413 土坑 (第 6 図)

位 置 調査区北西部 平 面 形 不整長楕円形 重複関係 なし  
規 模 長軸約 1.60m, 短軸約 0.40m, 深さ約 0.26m  
埋 土 A・B層の 2 層からなる。  
A層は, 黒褐色土を主体とし, 褐色シルト粒を少量含んでいる。  
B層は, 褐色土を主体とし, 黒褐色シルト粒を少量含んでいる。  
底面・壁 基底面は若干勾配を呈するもののほぼ平坦で, 壁は外傾して立ち上がる。  
出土遺物 出土していない。

RD 414 土坑 (第 6 図)

位 置 調査区北西部 平 面 形 不整楕円形 重複関係 なし  
規 模 長軸約 1.13m, 短軸約 0.52m, 深さ約 0.29m  
埋 土 A・B層の 2 層からなる。  
A層は, 黒褐色土を主体とし, 褐色シルト粒を微量含んでいる。  
B層は, 褐色土を主体とし, 黒褐色シルト粒を微量含んでいる。  
底面・壁 基底面はほぼ平坦で, 壁は外傾して立ち上がる。  
出土遺物 出土していない。

RD 415 土坑 (第 6 図)

位 置 調査区南部 平 面 形 不整楕円形 重複関係 なし  
規 模 長軸約 1.05m, 短軸約 0.40m, 深さ約 0.20m  
埋 土 A・B層の 2 層からなる。  
A層は, 黒褐色土を主体とし, 褐色シルト粒を少量含んでいる。褐色シルト粒の含有率  
で 2 層に細分され, 下層の A<sub>2</sub>層の方が含有率が高い。  
B層は, 暗褐色土を主体とし, 黒褐色シルト粒及び褐色シルト粒を少量含んでいる。  
底面・壁 基底面は丸底形で, 壁は外傾して立ち上がる。  
出土遺物 出土していない。

RD 416 土坑 (第 6 図)

位 置 調査区南部 平 面 形 不整円形 重複関係 なし  
規 模 長軸約 0.80m, 短軸約 0.60m, 深さ約 0.16m  
埋 土 A・B層の 2 層からなる。  
A層は, 黒褐色土を主体とし, 褐色シルト粒を微量含んでいる。  
B層は, 黒褐色土を主体とし, 褐色シルト粒を多量に含んでいる。部分的にシルト塊も  
点在している。  
底面・壁 基底面はほぼ平坦で, 壁は外傾して立ち上がる。  
出土遺物 出土していない。

RD 417 土坑 (第 6 図)

位 置 調査区南部 平面形 不整楕円形 重複関係 なし  
規 模 長軸約 0.96m, 短軸約 0.63m, 深さ約 0.15m  
埋 土 A 層の単層である。黒褐色土を主体とし、褐色シルト粒を含んでいる。褐色シルト粒の含有率で 2 層に細分され、下層の A<sub>2</sub> 層の方が含有率が高い。また、色相も若干明るい。  
底面・壁 基底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。  
出土遺物 出土していない。

RD 418 土坑 (第 6 図)

位 置 調査区南部 平面形 不整楕円形 重複関係 なし  
規 模 長軸約 0.70m, 短軸約 0.37m, 深さ約 0.17m  
埋 土 A 層のみの単層である。黒褐色土を主体とし、褐色シルト粒を含んでいる。褐色シルト粒の含有率で 2 層に細分され、下層の A<sub>2</sub> 層の方が含有率が高い。また、色相も若干明るい。  
底面・壁 基底面は僅かに彎曲している。壁は外傾して立ち上がる。  
出土遺物 出土していない。

RD 419 土坑 (第 6 図)

位 置 調査区南部 平面形 不整円形 重複関係 なし  
規 模 長軸約 1.05m, 短軸約 0.93m, 深さ約 0.21m  
埋 土 A・B 層の 2 層からなる。  
A 層は、黒褐色土を主体とし、褐色シルト粒を少量含んでいる。  
B 層は、暗褐色土を主体とし、黒褐色シルト粒を微量、褐色シルト粒を多量に含んでいる。  
底面・壁 基底面は若干彎曲しており、丸底状である。壁は基底面からなだらかに外傾して立ち上がる。  
出土遺物 出土していない。

RD 420 土坑 (第 6 図)

位 置 調査区南部 平面形 不整楕円形 重複関係 なし  
規 模 長軸約 1.84m, 短軸約 0.85m, 深さ約 0.45m  
埋 土 A・B 層の 2 層からなる。  
A 層は、黒褐色土を主体とし、褐色シルト粒を微量含んでいる。褐色シルト粒の含有率で 2 層に細分され、下層の A<sub>2</sub> 層の方が含有率が若干高い。  
B 層は、暗褐色土を主体とし、黒褐色シルト粒及び黄褐色シルト粒を少量含んでいる。  
底面・壁 基底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。  
出土遺物 出土していない。

## RG 410 堀跡 (第7・8 図)

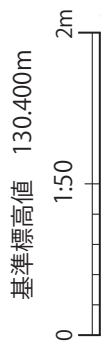
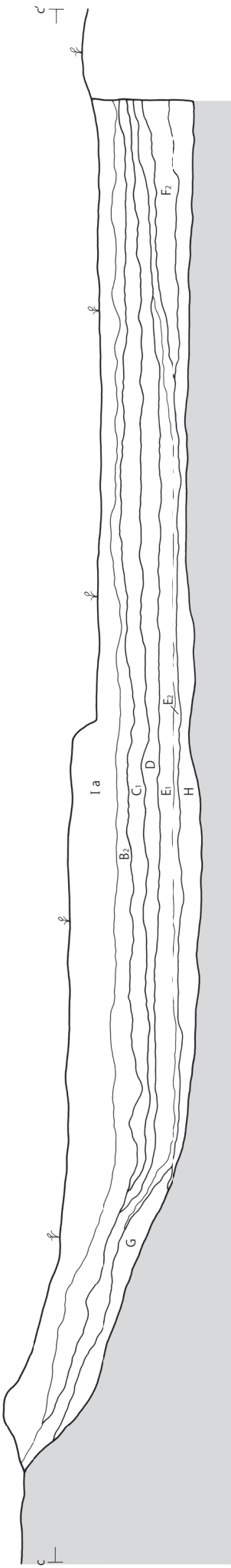
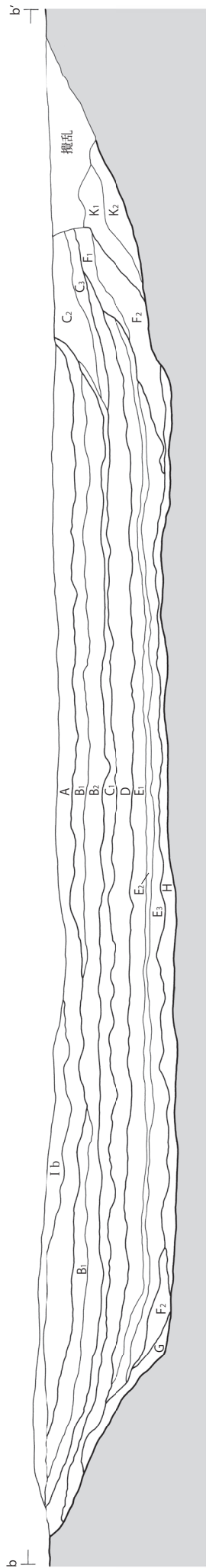
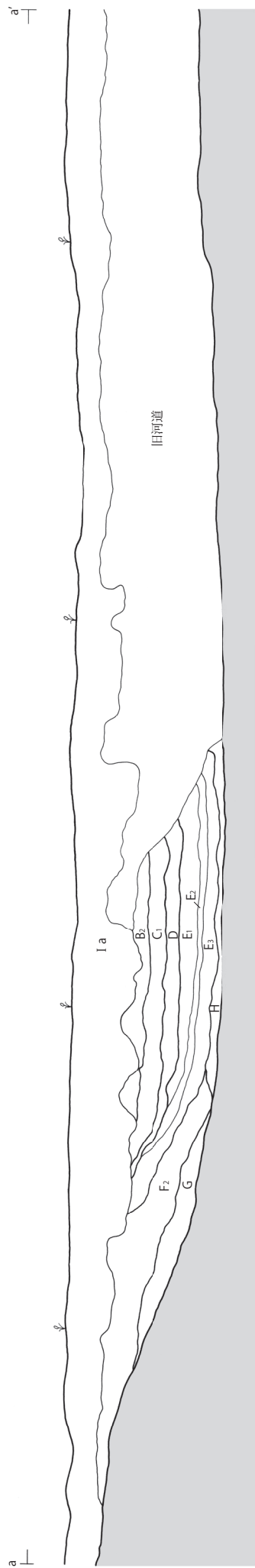
- 位置 調査区南東端—北西端 重複関係 なし
- 規模 最大延長約 34.72m, 開口部最大幅約 13.5m, 基底部最大幅約 9.4m, 最大深約 1.1m
- 埋土 A～H層の8層からなる。
- A層は、暗褐色土を主体とし、黄褐色シルト粒を微量含んでいる。
- B層は、黒褐色土を主体とし、黄褐色シルト粒を微量含んでいる。下層のB<sub>2</sub>層の方が色相が若干明るい。
- C層は、黒褐色土を主体とし、黄褐色シルト粒を微量含んでいる。赤褐色の酸化鉄粒も多量に含まれている。
- D層は、黒褐色土を主体とし、黄褐色シルト粒を微量含んでいる。酸化鉄粒も含まれているが、上層のC層より含有率は低く、土層の色相も若干暗い。
- E層は、黒褐色土を主体とする。白色化した木片屑と流木枝が多量に含まれている。粘性の高い粘土質の土層で、含有土及び色相で3層に細分される。
- F層は、暗褐色土を主体とし、黄褐色粘土及び灰白色粘土塊を少量含んでいる。下層のF<sub>2</sub>層の方が色相が若干明るい。
- G層は、暗褐色土を主体とし、黄褐色粘土及び灰白色粘土塊を多量に含んでいる。
- H層は、黄褐色粘土を主体とする。灰白色粘土を多量に含み、部分的に黄褐色粘土塊が点在している。
- I層は、黒褐色土を主体とし、黄褐色粘土を少量含んでいる。
- J層は、黒色土を主体とする。粘性の高い土質で、板状塊の灰白色粘土を多量に含んでいる。
- K層は、黄褐色土を主体とし、黒褐色土及び灰白色粘土塊を少量含んでいる。
- 概括すると、水平堆積を基調としており、流路としての痕跡が窺える。C・D層には、赤褐色酸化鉄が含まれており、その下層は土質が粘質になり、含有土の黄褐色粘土及び灰白色粘土が塊状に点在していた。E層には、木片屑と流木が多量に含まれており、ここにも流路の痕跡が看取される。
- 底面・壁 基底面は全体的にほぼ平坦であるが、大きく抉れた箇所も散見され一様ではない。壁は外傾してスロープ状に立ち上がり、断面は逆台形を呈している。傾斜角度は60°～70°程度である。壁面は一様ではなく、テラス状の張り出しが造り出されている箇所が認められたが、柱穴跡や柵跡等の付属施設は検出されなかった。
- 堀跡ほぼ中央部において、南西に「ト」状の張り出しが認められる。延長約10m, 最大幅約6m, 検出面からの深さ約0.4mを測る。基底面は堀跡本流との比高は大きくないが、一段高くなっていた。壁の勾配も堀跡本流と同様である。堀跡と重複する別遺構とも想定できたため、土層の切り合いを確認したが、新旧関係は認められなかった。
- 出土遺物 (第3 図版) E層から近世陶磁器が数点出土した。1は肥前染付の三寸丸皿, 2は肥前染付の碗である。3は相馬大堀産の掛け分け茶碗で、内面に灰釉, 外面に鉄釉が施されている。いずれも18世紀以降の所産と考えられる。他に、肥前そば猪口, 肥前徳利の小破片が出土している。



第7図 RG410掘跡(1)







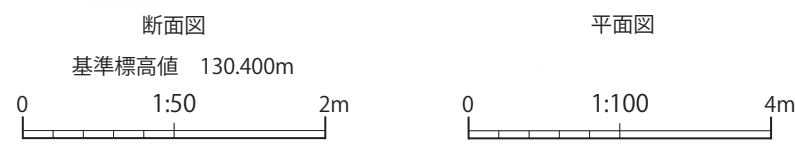
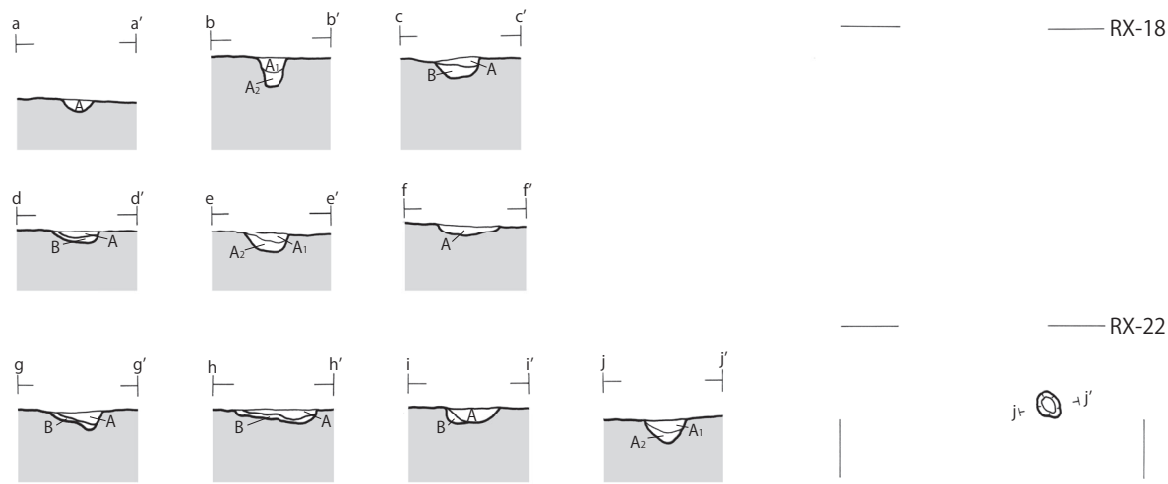
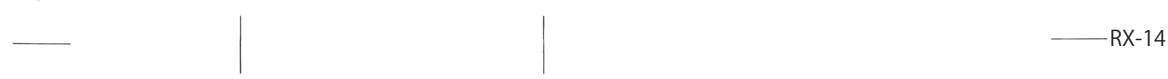
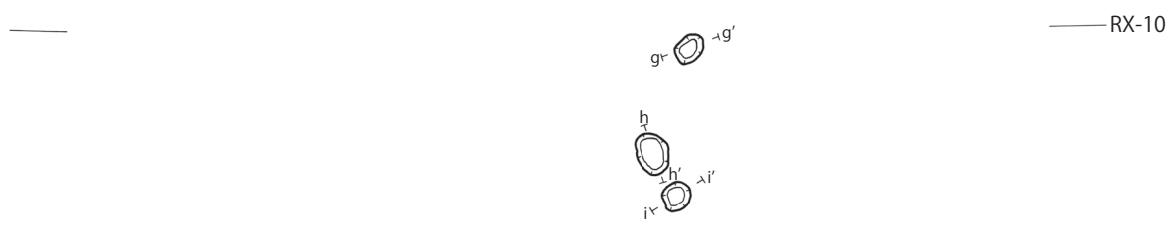
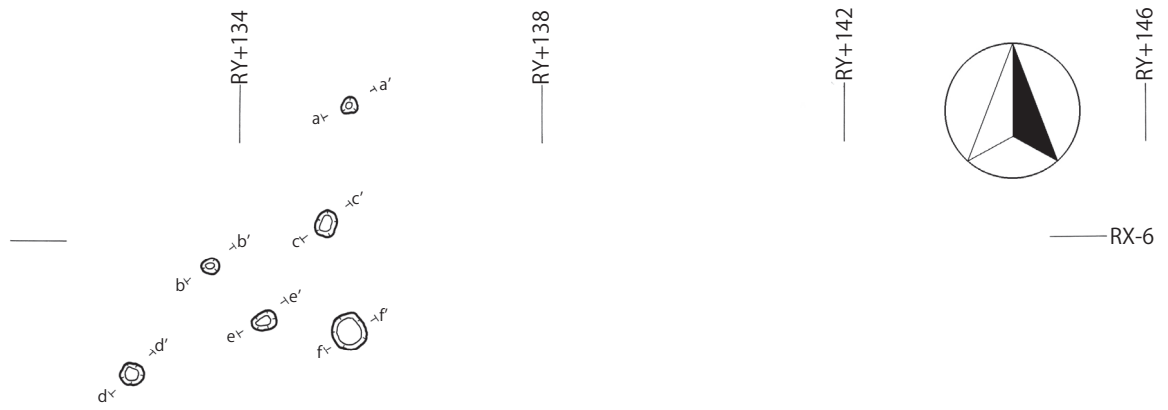
第8図 RG 410 掘跡 (2)

#### 柱穴状ピット群（第9図）

調査区南部において、10口検出された。平面はいずれも不整円形が主体となっている。基底は平坦なものや、緩やかに彎曲した丸底風なものなど様相は一様ではなく、壁も同様である。規模は、径0.2m～0.5m、深さ0.1m～0.2mを測る。

埋土は、単層のものは、黒褐色土を主体とし、褐色シルト粒を含んでいる。2層に分かれるものは、上層は黒褐色土を主体とする層で、下層は、暗褐色土を主体とし、褐色シルト粒を含んでいる。褐色シルト粒の含有量は多少があるものの、多量に含まれているものは認められない。

検出位置は、北側部分で密であるが、特定の属性が窺えるものではない。平面位置や深さ等に規則性は認められず、建物跡や柱列跡等の特定の遺構を想起させるものは看取されなかった。遺物は出土していない。



第9図 柱穴状ピット群

### Ⅲ ま と め

本調査の結果、土坑 12 基、堀跡 1 条、柱穴状ピット群が確認された。土坑のうち、R D 021・022 土坑は、平面が溝状の長楕円形を呈し、断面は開口部が広く、中段で窄まり、基底部分が狭細になる Y 字形を呈している。この形態的特徴から陥し穴としての機能が推測される。出土遺物がないために、帰属時期は明確にはしえないが、従前の調査例及び類例等から縄文時代に帰属すると推測される。陥し穴状土坑は、第 2 次・第 28 次調査等で合計 20 基以上が確認されており、本遺跡が縄文時代には狩猟場であったことを想起させる。しかし、第 2 次・第 28 次調査区が遺跡ほぼ中央部であるのに対し、今次調査区は縁辺部に位置する。この間の調査区では陥し穴状土坑は検出されておらず、分布に偏りがみられる。未だ未調査の区域もあるため、当時の狩猟の様相を窺うには、類例の増加が待たれる。

調査区南東端部から北西端部にかけて、大きく緩やかな弧をえがく堀跡（R G 410）が検出された。第 10 次調査で確認された堀跡に連なるもので、遺跡外周を巡るものである。堀跡の形状は、基底部分は全体としてほぼ平坦で、壁が一定の傾斜でスロープ状に立ち上がる逆台形を呈している。テラス状の造りだしが認められる箇所もあったが、柱穴跡や柵列跡等の付属施設は検出されなかった。第 10 次調査では、堀の内側に柵と土塁が形成されていたが、今次調査では確認されなかった。後世の削平や旧河道により湮滅したと推測される。遺物は、近世陶磁器片が出土した。いずれも流路堆積土の E 層からの出土であるため、堀跡の帰属時期を示すものではなく、埋没過程での流入であろう。特徴的な部分としては、堀跡中央部において、南西に突出した張り出し部が認められる点である。本調査では、この張り出し部を性格付ける痕跡や遺物は確認されず、管見の限り、他に類例を求められない。そのため、性格・機能については不明である。構築時期についても、土層堆積状態からは、堀構築当初から造成されたか否か明確には出来なかった。地元住民によれば、「かなり昔から」この形状であったとのことであり、また、戦後の米軍空撮写真でも、この部分に影のようなものが認められるため、少なくとも戦後直後までには開析されたと考えられる。堀跡の南半部は本調査以前は田として利用されており、この張り出し部も戦前のどこかの段階で、田として新しく開析された可能性も考えられよう。

本遺跡は、従前の調査結果により、12 世紀の居館跡を主体とする遺跡であることが判明している。第 2 次調査で確認された 2 間×4 間の四面庇を持つ掘立柱建物跡や 2 間×5 間の掘立柱建物跡、竪穴建物が郭内の屋敷群として形成され、外周を今次調査で検出された堀が巡る様相を呈している。出土遺物は僅少であるが、第 2 次調査で出土した中国産白磁碗、須恵器 壺、手捏かわらけ等が 12 世紀の所産である。ただし、遺構の重複が少ない点や出土遺物に乏しい点などを勘案すれば、極めて短期間に営まれた居館跡と推測される。本遺跡の類例として求められるのは、紫波町・比爪館跡である。遺跡の規模、四面庇建物跡等の掘立柱建物跡群、堀跡（比爪館跡発掘調査報告書では大溝と呼称）の様相等、両者は類似点が多く、関連性が想起されるところである。本遺跡は未だ不明確な点が多く、更なる知見の増加を待つて後考を期したい。

#### <引用・参考文献>

- 紫波町教育委員会 1992 『比爪館 第 9・10 次発掘調査報告書』
- 盛岡市遺跡の学び館 2008 第 7 回企画展図録『岩手・斯波の平泉文化』
- 盛岡市教育委員会 1994 『稲荷町遺跡 一第 1～4・6 次発掘調査報告一』

# 写真図版





第37次調査区 遠景（南東から）



第37次調査区 全景（東から）

第1図版 第37次調査区 全景







1948年 米軍撮影



2008年 撮影

第2図版 稲荷町遺跡 空中写真

(国土地理院 空中写真データを部分拡大して作成)





土層堆積状況



出土遺物 (縮尺 1 : 2)





RD021 土坑 全景 (南西から)



RD022 土坑 全景 (南東から)



RD411 土坑 全景 (南から)



RD412 土坑 全景 (南から)



RD413 土坑 全景 (南から)

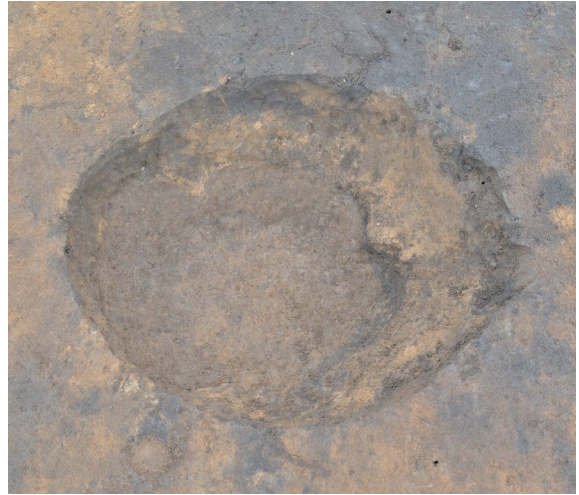


RD414 土坑 全景 (南から)





RD415 土坑 全景 (南東から)



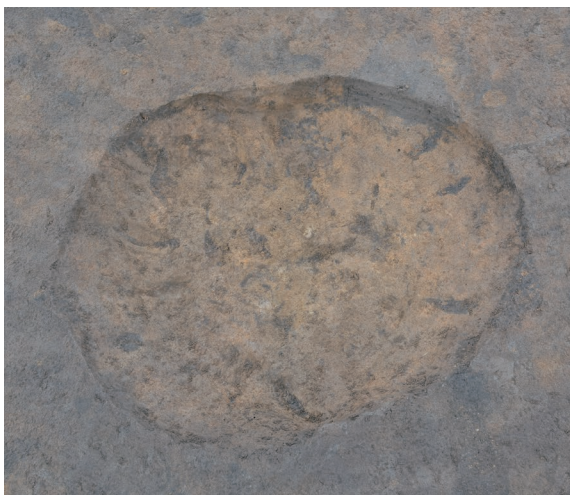
RD416 土坑 全景 (南東から)



RD417 土坑 全景 (南東から)



RD418 土坑 全景 (南東から)



RD419 土坑 全景 (南東から)



RD420 土坑 全景 (南東から)





# 報告書抄録

ふりがな	いなりちょういせき							
書名	稲荷町遺跡							
副書名	第37次調査 宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書							
編集者名	菊地 幸裕・鈴木 俊輝							
編集機関	盛岡市遺跡の学び館							
所在地	〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋 13-1 電話 019-635-6600							
発行機関	盛岡市教育委員会・積水ハウス不動産東北株式会社							
発行年月日	2021年6月30日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いなりちょういせき 稲荷町遺跡 (第37次)	いわてけん もりおかし おおだて 岩手県盛岡市大館 ちょう 町 126-1,127-1 外	03201	LE06-2010	39° 42' 40"	141° 06' 35"	20200907 ～ 1106	1,441	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
稲荷町遺跡 (第37次)	集落跡	縄文時代 中世 古代以降	陥し穴状土坑 2 基 堀跡 1 条 土坑 10 基, 柱穴状ピット		縄文土器 近世陶磁器 コンテナ 1/2 箱			
要約	<p>本遺跡は、12世紀の居館跡を主体とする遺跡である。</p> <p>今次調査では、縄文時代の陥し穴状土坑、中世の堀跡等が確認された。堀跡は、遺跡の縁辺を巡るもので、従前の調査で確認された部分の延長にあたる。遺跡中央部に掘立柱建物群を形成し、その外周に堀を巡らせている構造が判明した。</p>							



---

## 稲荷町遺跡

－ 第 37 次調査 宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書 －

令和 3 年 6 月 30 日 発行

編集 盛岡市遺跡の学び館  
〒 020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋 13-1  
電話 019-635-6600 FAX 019-635-6605  
e-mail iseki@city.morioka.iwate.jp  
URL [http://www.city.morioka.iwate.jp/shisei/  
moriokagaido/rekishi/1009437/1009438.html](http://www.city.morioka.iwate.jp/shisei/moriokagaido/rekishi/1009437/1009438.html)

発行 盛岡市教育委員会・積水ハウス不動産東北株式会社

印刷 株式会社 阿部印刷  
〒 020-0873 岩手県盛岡市松尾町 2-2  
電話 019-624-2242 FAX 019-624-0177

---

